

科目名	成人看護学概論	必修	選択		授業形態	単位数	開講時期
					講義	1	1年 後期
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成長発達からみた成人期にある人の身体的・心理的・社会的側面を知ることにより、生活している人の特徴を総合的に理解する。また成人期にある人の健康の現状と動向を理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護の機能と役割を理解する。</p> <p>さらに援助の目的をセルフケア促進という視点からとらえ、成人期の生活過程を理解し、疾病予防のための援助方法について学ぶ。</p> <p>成人看護に関心を持ち、自己の健康と比較し、健康観を養うことができる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明できる。 2. 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題について説明できる。 3. 成人期にみられる健康障害が成人の特徴・生活スタイルと関連づけて説明できる。 4. 成人の健康レベルに対応した看護について説明できる。 5. 成人の特性や能力に応じたアプローチの基本について説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学ガイダンス 2. 成人の概念、発達課題 3. 成人各期（青年期）の特徴 4. 成人各期（壮年期・向老期）の特徴 5. 成人の生活を理解する視点と方法 6. 健康観の多様性と看護 7. 学習の特徴と看護 8. 生活習慣に関連する健康障害／職業に関連する健康障害 9. 生活ストレスに関連する健康障害／セクシュアリティに関連する健康障害 10. 余暇活動に伴う健康障害／更年期にみられる健康障害 11. 病みの軌跡 12. セルフケア／ストレス／危機 13. 適応／自己効力 14. ヘルスプロモーション 15. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1) 成人看護学概論 メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民衛生の動向</p> <p>厚生労働省監修 厚生労働白書</p> <p>日本看護協会編 看護白書</p> <p>医学情報科学研究所編集 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA</p> <p>氏家幸子監修 成人看護学 A.成人看護学原論 廣川書店</p> <p>服部祥子著 生涯人間発達論 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	成人看護方法論 I (看護過程・技術)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	2年 後期
区分	専門分野 II						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	45時間
担当者	松下ゆかり	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	西川紀恵	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	越智志保	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人を対象とした看護における主な看護問題の解決に必要な知識と技術を、演習により習得する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者の病期の特徴に応じたアセスメントの視点を理解できる。 2. 成人期にある患者の看護上の問題点を抽出でき、解決に必要な看護を理解できる。 3. 手術前後に必要な看護技術について、学内演習で実施できる。 4. 循環を助けるための看護技術について、学内演習で実施できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 外科的治療を受ける成人に必要な看護技術 手術前後の援助 3.～10. 看護技術演習 11.～15. 急性期にある対象の事例展開『胃癌』 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例展開 ペーパー・シュミレーション 2) 事例展開 3) 事例展開 4) 事例展開 16.～20. 慢性期にある対象の事例展開『糖尿病』 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例展開 ペーパー・シュミレーション 2) 事例展開 3) 事例展開 4) 事例展開 21.～23. 事例発表 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑥ 内分泌・代謝疾患 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑤ 消化器疾患 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>新道幸恵監訳 看護診断ハンドブック 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>演習および校内演習、レポート、グループワーク参加の態度、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	成人看護方法論Ⅱ (急性期)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習				
区分	専門分野Ⅱ				1	2年 前期	
担当者	篠原健司	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	千場美保子	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

急性の経過をたどる人の特徴を理解して、生命維持を図るとともに心身の苦痛緩和・早期回復を目指した援助方法を習得する。
生命危機にある人の看護として、循環器機能を障害された人の特徴、症状、看護が理解できる。
また、手術を受ける対象を理解し、術前・術後に必要な看護を習得する。

学生の到達目標

1. 生命危機にある人や家族の特徴を理解し、生命維持・回復に向けた看護を理解できる。
2. 循環器機能障害を持つ人の主要症状・検査・治療・看護について理解することができる。
3. 手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を理解することができる。
 - 1) 回復術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。
 - 2) 開胸手術4を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。
 - 3) 甲状腺手術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。

授業概要（授業計画）

<篠原健司>

1. } 生命危機にある人の看護
2. } 突然の展開により生命の危機的状況にある人の理解
看護の目的と機能
3. クリティカルケア概念
クリティカルな状態にある患者の看護 家族への看護
4. 循環機能障害をもつ人の看護の特徴
5. 循環機能障害の主要症状に対する看護
6. 循環機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護 -
ME機器デモンストレーション
(心電図・心臓カテーテル検査、中心静脈圧測定・心臓リハビリ)
7. 対象となる主な病態と看護 -
心不全 虚血性心疾患 血圧異常 心臓手術後の患者の看護
8. 終講試験 まとめ

<千場美保子>

1. } 手術を受ける対象の看護
2. } 手術を受ける対象の特徴
3. } 手術による影響
4. } 手術を受ける対象の看護 - 術前・術中・術後
5. 開腹手術を受ける患者の特徴と問題
6. 開胸手術を受ける患者の特徴と問題
7. 開胸手術を受ける患者の看護
8. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	成人看護方法論Ⅲ (回復期)	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			講義				1	2年 前期
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	越智麻衣	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	4 / 30時間	
担当者	伊東桃子(八木世莉奈)	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	11 / 30時間	
担当者	川本小夜子	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	11 / 30時間	
担当者	磐浅万紀子	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	4 / 30時間	

授業の目的・ねらい

回復の経過をたどる人の特徴を理解し、社会復帰に向けての援助方法を理解できる。
 運動機能を障害された人の特徴、症状、看護を学ぶ。
 感覚機能・言語機能を障害された人の特徴、症状、看護が理解できる。
 身体機能の一部を喪失する、あるいは喪失した人の特徴をふまえ、障害受容へと自立へむけた援助方法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 回復過程にある人にあり、障害をもつ人の心理やニーズおよび家族の問題と援助方法が理解できる。
2. 運動機能系・感覚機能・言語機能の障害がある人の主要症状・検査・治療・看護を理解することができる。
3. 身体の機能の一部を喪失した人の理解ができ、自立への援助方法を理解できる。
4. 内分泌機能障害のある人の主要症状・検査・看護を理解できる。

授業概要 (授業計画)

<越智麻衣・磐浅万紀子>

1. } 回復過程にある人の特徴と問題
2. }
3. } 回復過程にあり、障害をもつ人の援助方法
4. }
5. 終講試験・まとめ

<伊東桃子 (八木世莉奈) >

1. } 運動機能障害をもつ人の看護
2. } 運動機能障害の主要症状に対する看護
3. } 運動機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
4. }
5. 運動機能障害をもつ人のおもな看護
6. 筆記試験・まとめ

<川本小夜子>

1. } 脳・神経系 (認知機能・コミュニケーション) に障害をもつ人の看護
2. } 脳・神経系に障害をもつ主要症状に対する看護
3. 脳・神経系のおもな検査・治療・処置に伴う看護
4. } 脳神経系に障害をもつ人のおもな看護
5. }
6. 筆記試験・まとめ

<越智麻衣>

1. } 身体の一部喪失に伴う、諸機能の変化とその看護
2. } (乳房切除術を受ける患者の看護)

<磐浅万紀子>

3. } 身体の一部喪失に伴う、諸機能の変化とその看護
4. } (人工肛門造設術を受ける患者の看護)

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院

参考書

氏家幸子監修 成人看護学 第2版 D. リハビリテーション患者の看護 廣川書店

成績評価方法

筆記試験、出席状況で総合して評価する。

科目名	成人看護方法論Ⅳ (慢性期)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			選択	講義			
区分	専門分野Ⅱ				1	2年 前期	
担当者	村上比奈恵	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	6 / 30時間
担当者	越智志保	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	9 / 30時間
担当者	木村美緒	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	9 / 30時間
担当者	伊藤由美	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	6 / 30時間

授業の目的・ねらい

慢性期の経過をたどる人の特徴を理解して、自立・再発防止のための援助方法を理解する。
 疾患の自己コントロールを必要とする人が社会生活に適應できるようにするための援助について学ぶ。
 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の主な看護の特徴、症状、看護を理解する。

学生の到達目標

1. 生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする人の適應過程と看護の特徴を理解できる。
2. 病院から地域へ社会復帰における看護の役割を理解できる。
3. 栄養代謝障害と内分泌機能障害をもつ人の看護を理解できる。
4. 免疫機能の障害と肝機能障害をもつ人の看護を理解できる。
5. 腎機能障害をもつ人の看護を理解できる。

授業概要 (授業計画)

<越智志保>

1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の看護
2. 栄養代謝障害をもつ人の看護
 - 1) 糖代謝障害をもつ人の看護の特徴
3. 2) 糖代謝系の主要症状に対する看護
 - 3) 糖代謝障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 糖代謝障害をもつ人の看護

<村上比奈恵>

4. 内分泌機能障害をもつ人の看護
 - 1) 内分泌機能障害をもつ人の看護の特徴
5. 2) 内分泌系の主要症状に対する看護
 - 3) 内分泌系の検査・治療・処置に伴う看護
7. 4) 内分泌機能障害をもつ人の看護『甲状腺機能亢進症』
8. 終講試験・まとめ

<木村美緒>

1. 免疫機能の障害をもつ人の看護
 - 1) 免疫機能障害をもつ人の看護の特徴
 - 2) 免疫機能障害の主要症状に対する看護
2. 3) 免疫機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 免疫機能障害をもつ人の看護『膠原病』
3. 肝機能障害をもつ人の看護
 - 1) 肝機能障害をもつ人の看護の特徴
4. 2) 肝機能障害の主要症状に対する看護
 - 3) 肝機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 肝機能障害をもつ人の看護『肝炎』『肝硬変』
5. 終講試験・まとめ

<伊藤由美>

1. 腎機能に障害をもつ人の看護
 - 1) 腎機能に障害をもつ人の看護の特徴
 - 2) 腎機能障害の主要症状に対する看護
 - 3) 腎機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
3. 4) 腎機能に障害をもつ人の看護『慢性腎不全』
4. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、出席状況で総合して評価する。

科目名	成人看護方法論V (終末期)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			選択	講義			
区分	専門分野II				1	2年 後期	
担当者	加賀爪美佳	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	16 / 30時間
担当者	西村小百合	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	7 / 30時間
担当者	安部貴成	資格	放射線技師	実務経験	(有)・無	時間	7 / 30時間

授業の目的・ねらい

終末期の経過をたどる人の特徴を理解して、苦痛や死への不安・恐怖を緩和し、QOLの向上を目指した援助方法を理解する。

その中で、治療困難で呼吸機能に障害がある人、血液造血機能に問題がある人、感染症による障害を受けた人の看護の特徴、症状、看護を理解する。さらに、人間の生と死について考え、自己の死生観を習得する。

学生の到達目標

1. 終末期にある人の特徴と、患者・家族の死の受容過程に応じた援助の方法について理解できる。
2. 終末期にある人の苦痛の緩和・症状のコントロールに対する看護について理解できる。
3. 呼吸機能、血液・造血機能に障害をもつ人の看護を理解できる。
4. 放射線療法を受ける患者、感染により障害を受け、終末期を迎える人の看護を理解できる。
5. 自己の死生観を述べることができる。

授業概要（授業計画）

<加賀爪美佳>

終末の経過をたどる人の特徴

1. 1) 終末期にある対象の理解
- 2) 終末期にあるがん患者の心理過程とそのQOL
2. 3) 終末期にある人の身体的苦痛の援助とQOL
- 4) 終末期にある人を支える家族への援助
3. 5) 終末期看護の体制 終末期医療のこれからの課題
- 6) 自己の生と死についての考え方

呼吸機能に障害をもつ人の看護

4. 1) 呼吸機能に障害をもつ人の特徴
- 2) 呼吸機能に障害の主要症状に対する看護
5. 3) 呼吸機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
- 4) 呼吸機能障害の病態と看護『肺癌』

血液・造血機能に障害をもつ人の看護

6. 1) 血液・造血機能に障害をもつ人の特徴
- 2) 血液・造血機能障害の主要症状に対する看護
7. 3) 血液・造血機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
- 4) 血液・造血機能障害の病態と看護『白血病』
8. 終講試験・まとめ

<阿部貴成>

放射線療法を受ける対象の看護

1. 1) 放射線療法とは
- 2) 放射線診断と治療
2. 3) 放射線防護と健康管理
3. 4) 放射線療法の看護
4. 終講試験・まとめ

<西村小百合>

感染により障害を受けた終末期を迎える人の看護

1. 1) 感染の概念、感染予防、感染症患者の看護
2. 2) 感染症患者の理解、看護の役割、症状に対する看護
3. 3) 病態と看護『結核・MRSA・エイズ』
4. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、レポート、出席状況で総合して評価する。

科目名	老年看護学概論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 前期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	森千賀子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>超高齢社会の現況をふまえて、老いを生きるという事を学び、老年看護の役割が理解できる。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢と老化の関係について学び、高齢者の特徴が説明できる。 2. 加齢に伴う、身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。 3. 超高齢化社会の統計的に輪郭について学び、保健医療福祉権利擁護の動向がわかる。 4. 高齢者の今後の課題について説明できる。 5. 老年看護の定義及びその役割について説明できる。 6. 老年看護における理論・概念を学び、それに携わる者の責務がわかる。 7. 高齢者体験を通して、日常のさまざまな場面の不自由さがわかる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者について知る 老いに対するさまざまなイメージとは・・・ 2. 老いを生きるということ 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化について 3. 超高齢化社会における看護活動の多様化について 4. 高齢者にかかわる保険・医療・福祉システムについて 高齢者の権利擁護 5. 老年看護の役割・特徴 6. 老年看護における理論の活用 7. 高齢者体験（校内探索） 8. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 資料作成して配布</p>								
<p>参考書</p> <p>日野原重明他監修 「看護のための最新医学講座 老人の医療17」 中山書店 2001 鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 26 老年看護概論・老年保健」 メヂカルフレンド社 中島紀恵子他著 「老年看護学 専門 19」 医学書院 岩本俊彦他著 「イラストで見る診る看る 老年看護」 TECOM 2002 「図説 国民衛生の動向」 厚生統計協会</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験・グループ演習態度・発表内容・レポートを総合的に評価する</p>								

科目名	老年看護方法論 I	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 後期
区分	専門分野 II						
担当者	今井幸子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>老年期における、さまざまな加齢変化をふまえて、生活機能を整える看護が理解できる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のヘルスアセスメントの枠組みとその方法が説明できる。 2. 高齢者の日常生活について説明できる。 3. 日常生活動作を支える援助について説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの枠組み <ol style="list-style-type: none"> ① 身体的健康のアセスメント ② 生活の自立状態のアセスメント ③ 心理・社会的健康のアセスメント ④ 環境のアセスメント ⑤ 生活史のアセスメント 2. 身体に加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ① 皮膚とその付属品 ② 視聴覚とその他の感覚 ③ 循環系 ④ 呼吸系 ⑤ 消化器系 ⑥ ホルモンの分泌 ⑦ 泌尿生殖器 ⑧ 運動系 3. 日常生活を支える基本的活動 食事・食生活の支援 4. 排泄ケア 清潔の援助 5. 生活リズムを整える看護 コミュニケーション 6. セクシュアリティ 7. 社会参加 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 老年看護 病態・疾患論 医学書院 資料作成して配布</p>							
<p>参考書</p> <p>鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 26 看護概論・老年保健」 メヂカルフレンド社 鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 27 健康障害をもつ高齢者の看護」 メヂカルフレンド社 岩本俊彦他著 「イラストで見る診る看る 老年看護」 TECOM 2002 後閑容子著 「エビデンスに基づく高齢者の看護ケア」 中央法規 2003</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験 グループ態度、レポート、授業態度を総合的に評価する</p>							

科目名	老年看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			講義				2	2年 前期・後期
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	松原利與子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間	
担当者	西辻佳世	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間	
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間	
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間	

授業の目的・ねらい

高齢者に特有な症状や疾患を理解し、多様なニーズに対応した看護の実際を学ぶ。

学生の到達目標

1. 高齢者に特有な症状や疾患・障害に応じた看護がわかる。
2. 健康状態や受療状態に応じた看護がわかる。
3. 介護予防や家族支援を含む生活・療養の場における看護がわかる。
4. 高齢者の特徴をいかした看護過程が展開できる。

授業概要（授業計画）

<松原利與子>

1. } 症候のアセスメントと看護
2. }
3. 1) 発熱
- 2) 痛み
4. 3) 掻痒（かゆみ）
- 4) 脱水
5. 5) 嘔吐
- 6) 浮腫
- 7) 倦怠感
6. 8) 褥瘡・スキン-ケア
7. 筆記試験・まとめ

<西辻佳世>

身体疾患のある高齢者の看護

1. 1) 脳卒中
2. 2) 心不全
- 3) 糖尿病
3. 4) 慢性閉塞性肺疾患
- 5) がん
- 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群
4. 7) インフルエンザ
- 8) 肺炎
- 9) 骨粗鬆症
- 10) 骨折

認知症機能障害のある高齢者の看護

5. 1) うつ
- 2) せん妄
- 3) 認知症
- 4) 認知機能および生活機能の評価
- 5) 認知症の看護
6. 治療を必要とする高齢者の看護
7. 1) 検査
- 2) 薬物療法
- 3) 手術
8. 筆記試験・まとめ

<眞鍋誠子>

健康状態や受療状況に応じた看護

1. 1) リハビリテーション
2. 2) 入院治療エンドオブライフケア
生活・療養の場における看護
3. 1) ヘルスプロモーション
4. 2) 地域包括ケア
5. 3) 家族の看護
高齢者のリスクマネジメント
6. 1) 医療安全
7. 2) 救命救急
3) 災害
8. 筆記試験・まとめ

<曾根みゆき>

1. ~ 7. 看護の展開
誤嚥性肺炎にて入院となった患者の事例をもとに看護過程を展開する。
8. 事例・レポート作成

教科書

系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護 病態・疾患論	医学書院

資料作成して配布

参考書

日野原重明他監修 「看護のための最新医学講座 老人の医療17」 中山書店 2001
鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 27健康障害をもつ高齢者の看護」 メヂカルフレンド社
岩本俊彦他著 「イラストで見る診る見る 老年看護」 TECOM 2002
後閑容子著 「エビデンスに基づく高齢者の看護ケア」 中央法規 2003

成績評価方法

筆記試験、レポート提出状況、授業態度を総合的に評価する。

科目名	小児看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 後期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>小児看護の対象である子どもと家族の特徴および、子どもを取り巻く社会・医療・環境状況について学ぶ。また、小児の健全な成長・発達を支援するための小児保健統計、法律、施策について学び小児看護の機能と役割、課題について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象、目的、役割について述べることができる。 2. 子どもを取り巻く社会環境（母子保健指標も含む）が理解できる。 3. 子どもと家族を支援するための法律・施策について理解できる。 4. 子どもの権利と小児看護における倫理について理解できる。 5. 小児看護で用いられる各理論を理解することができる。 6. 小児看護における看護師の果たす役割と今後の課題について述べることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学ガイダンス 小児看護の対象と目的 小児看護の歴史的変遷 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護と法律・施策① 4. 小児看護と法律・施策② 5. 子どもの権利と小児看護における倫理 6. 小児看護における理論 7. 小児看護の課題 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民福祉と介護の動向 厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生労働省監修 厚生労働白書 中野綾美 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論 I	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野 II		講義		1	2年 前期	
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい 小児各期の成長・発達について学び、発達段階に応じた子どもと家族への健康増進のための看護について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達の概要を理解できる。 2. 小児各期の子どもの形態的成長・機能的発達・心理社会的発達について理解できる。 3. 小児各期の成長・発達に応じた子どもと家族への支援について理解できる。 4. 小児の発達段階に応じた健康な生活習慣の自立への援助方法について記述できる。 5. 小児期特有の事故と予防対策・安全教育について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達① 成長・発達の概念 成長・発達の原則及び影響因子 発達の速度と発育加速現象 2. 小児の成長・発達② 形態的成長 3. 小児の成長・発達③ 機能的発達 4. 小児の成長・発達④ 精神運動機能の発達 5. 小児の成長・発達⑤ 心理社会的発達 6. 小児の成長・発達⑥ 発育・発達評価と環境アセスメント 7. 新生児期・乳児期の成長発達に応じた生活への支援 8. 幼児期の成長発達に応じた生活への支援 9. 学童期の成長発達に応じた生活への支援 10. 思春期の成長発達に応じた生活への支援 11. 小児期特有の事故・外傷と看護① 事故の種類と救急処置 12. 小児期特有の事故・外傷と看護② 予防対策・安全教育 13. 健康増進のための生活援助技術① 14. 健康増進のための生活援助技術② 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学② 小児看護各論 医学書院 浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>随時紹介する</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	小児看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		2	2年 通年	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	松田 修	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	45 / 60時間

授業の目的・ねらい

小児期に多い疾患について学び、そのうえでさまざまな健康障害や健康問題をもつ小児と家族の看護を学ぶ。

小児看護については、子どもの権利を尊重しながら、子どもの発達段階や健康問題に応じて、安全・安楽に実施できる小児の基本的技術を習得する。

看護過程の展開については、小児期に多い疾患に関する事例を用いて展開し、子どもと家族が有する看護問題を解決する能力を養う。

学生の到達目標

1. 健康障害が小児の成長・発達や小児と家族の生活に及ぼす影響について理解できる。
2. 小児期に多い疾患の病態および治療について理解できる。
3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護について理解できる。
4. 小児医療の場で行われる小児看護技術の基本を習得できる。
5. 紙上事例をもとに子どもと家族の看護過程を展開し、小児看護過程の基礎について理解できる。

授業概要（授業計画）

<松田 修>

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 1) 染色体異常・先天性異常 | 2) 新生児及び低出生体重児の疾患 |
| 2. 3) 小児の内分泌・代謝疾患 | 4) 免疫・アレルギー疾患 |
| 3. 5) 小児の感染症 | 6) 小児の呼吸器疾患 |
| 4. 7) 小児の循環器疾患 | |
| 5. 8) 小児の消化器疾患 | 9) 小児の血液疾患 |
| 6. 11) 小児の腎・泌尿器及び生殖器疾患 | 10) 悪性新生物 |
| 7. 13) 小児の精神発達と障害 | 12) 小児の神経・筋疾患 |
| 8. 筆記試験・まとめ | |

<三浦柳子>

1. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護
2. 入院中の子どもと家族への看護
3. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護
4. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護
5. 外来における子どもと家族への看護
6. 虐待・災害を受けた子どもと家族への看護
7. 急性症状・痛みのある子どもと家族への看護①
8. 急性症状・痛みのある子どもと家族への看護②
9. 周手術期における子どもと家族への看護①
10. 周手術期における子どもと家族への看護②
11. 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護①
12. 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護①
13. 先天性疾患・心身障害のある子どもと家族への看護
14. 在宅医療を必要としている子どもと家族への看護
15. 終末期にある子どもと家族への看護
16. 筆記試験・まとめ
17. 小児看護技術①
18. 小児看護技術② 演習
19. 小児看護技術③ 演習
20. 看護過程の展開①
21. 看護過程の展開②
22. 看護過程の展開③ 演習
23. 看護過程の展開④ 演習 (個人ワーク提出)

教科書

奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院
奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学② 小児看護各論 医学書院
浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院

参考書

随時紹介する

成績評価方法

筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	母性看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野Ⅱ		講義		1	1年 後期	
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>リプロダクティブヘルス/ライツの理念と母性看護の対象及び母性看護の機能・役割を学ぶ。また、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解し、ヘルスプロモーションのための基礎的知識を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象について理解できる。 母性看護の対象を取り巻く環境・社会について学び、母性看護学の役割について理解できる。 母性のライフサイクルとマタニティサイクルにおける課題と健康問題について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念① 母性とは 母性を取り巻く社会の問題 母性看護の基盤となる概念② セクシュアリティ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 母性看護の歴史的変遷と現状 母性の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 母性看護を取り巻く環境 母性看護の対象理解 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 母性の発達（ジェンダー） 母性のライフサイクル各期における看護① ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 母性のライフサイクル各期における看護② ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>氏家幸子監修 母子看護学原論 廣川書店 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会 吉沢豊予子編著 女性の看護学 母性の健康から女性の健康へ メヂカルフレンド社 村本淳子・森明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版株式会社 武谷雄二編著 新女性医学大系9 女性と予防医学 中山書店 高橋真理・村本淳子 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護 ヌーベルヒロカワ</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	母性看護方法論 I	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 前期
区分	専門分野 II						
担当者	吉良敏彦	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	井上康弘	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもを産むにあたり生じる遺伝や不妊の問題について、その課題及び対応について学ぶ。 また、正常な分娩の機序と経過について学ぶ。 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常と妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児に起こる問題について理解できる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前のリプロダクティブヘルスとしての遺伝や不妊について理解し、倫理的課題について洞察できる。 2. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常と胎児・新生児に起こる問題について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><吉良敏彦></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前からのリプロダクティブヘルス① 遺伝、出生前診断 2. 出生前からのリプロダクティブヘルス② 着床前診断、胎児治療と遺伝子治療 3. 出生前からのリプロダクティブヘルス③ 不妊治療 4. DVDによる課題学習（倫理的課題） 5. 分娩の要素 6. 分娩の経過 7. 産婦と胎児の健康状態の診断 8. 筆記試験・まとめ <p><井上康弘></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の異常と看護① 2. 妊娠の異常と看護② 3. 分娩の異常と看護① 4. 分娩の異常と看護② 5. 新生児の異常と看護 6. 産褥の異常と看護 7. 精神障害合併妊婦と家族の看護 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>授業で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	母性看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期
			講義・演習		2	2年 通年
区分	専門分野Ⅱ					
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	有・無	時間 30 / 60時間
担当者	掛谷美加	資格	助産師	実務経験	有・無	時間 30 / 60時間

授業の目的・ねらい

正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦と新生児の看護を学習し、それをふまえて、周産期にある対象に、ウェルネスの観点から健康課題に応じた基礎的な看護の方法を学ぶ。さらに、母性看護学特有の看護技術の基礎を学ぶ。

学生の到達目標

1. 妊娠期にある対象の看護について理解できる。
2. 分娩期にある対象の看護について理解できる。
3. 産褥期にある対象の看護について理解できる。
4. 早期新生児期にある対象の看護について理解できる。
5. ウェルネスの観点から健康課題または看護問題を明らかにして、周産期にある対象の看護を行う過程について理解できる。
6. 母性看護に必要な基礎的看護技術を習得できる。

授業概要（授業計画）

<古浦和香>

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 妊娠期における看護① | 1) 妊婦の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 妊婦・胎児の看護アセスメント |
| 2. 妊娠期における看護② | 3) 正常な妊娠経過の看護 |
| | 4) ハイリスク妊婦の看護 |
| 3. 妊娠期における看護③ | 5) 正常から逸脱時の看護 |
| 4. 分娩期における看護① | 1) 産婦の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 産婦・胎児の経過診断とアセスメント |
| 5. 分娩期における看護② | 3) 正常な分娩経過の看護 |
| 6. 分娩期における看護③ | 4) 正常分娩からの逸脱時の看護 |
| 7. 産褥期における看護① | 1) 産褥の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 褥婦のアセスメント |
| | ①褥婦の経過 ②褥婦の日常生活とセルフケア |
| 8. 産褥期における看護② | 3) 褥婦の健康を整えるための看護 |
| 9. 産褥期における看護③ | 4) 正常産褥からの逸脱時の看護 |
| 10. 新生児期における看護 | 1) 新生児の生理 |
| | 2) 新生児のアセスメント |
| 11. 新生児期における看護 | 3) 新生児の異常と看護 |
| 12. 妊娠期における看護のまとめ | |
| 13. 分娩・産褥期における看護のまとめ | |
| 14. 新生児期における看護のまとめ | |
| 15. 筆記試験・まとめ | |

<掛谷美加>

看護の展開

1. 周産期看護の看護過程の考え方
2. 演習事例の説明(正常な経過をたどる産婦・褥婦・新生児)
3. 看護過程の展開グループワーク
4. ウェルネス看護診断の考え方に基づきワーク内容の修正
5. 看護過程の展開のグループワーク
6. 看護過程の展開のグループワーク発表①
7. 看護過程の展開のグループワーク発表②
8. 看護過程展開のまとめ

周産期看護に必要な母性看護技術

1. 妊娠期における看護技術 レオポルド触診法、計測、聴診
2. 妊娠期における看護技術
3. 妊娠期における看護技術 産褥子宮底測定・観察、乳房ケア
4. 新生児への看護技術 新生児の全身の観察、抱き方、身体各部の計測
5. 新生児への看護技術 授乳と排気、衣類・おむつ交換、沐浴
6. 技術演習①
7. 技術演習②
8. 筆記試験・まとめ

教科書

森恵美他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学概論 医学書院
石村百合子他著 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 井垣書院

参考書

新道幸恵編集 「事例で学ぶ母性看護学」 メヂカルフレンド社
太田操編著 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 医歯薬出版株式会社
随時紹介する

成績評価方法

筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	精神看護学概論	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	1年 前期
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	石村由加	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神の健康という視点から人間への理解を深め、精神看護の対象者および精神保健活動の場について基礎知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の発達や健康障害について、看護学とその関連領域の概念、枠組みを理解する。 2. 精神看護の対象となる人の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を学ぶ。 3. 精神障害者の人権を守り、地域生活を支えていくための援助方法について学ぶ。 							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象および精神保健活動についての基礎的知識を理解できる。 2. 脳の機能が人の認識に及ぼす影響について考えることができる。 3. 精神の発達に関する主要な理論を理解することができる。 4. ストレス反応・危機理論について理解し、自身のセルフマネジメントについて考えることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「精神(心)のとらえ方」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳の構造と認知機能 2) 精神(心)の構造とはたらき 2. 精神(心)の発達に関する主要な考え方① エリクソンの漸成的発 3. 精神(心)の発達に関する主要な考え方② ボウルビイの愛着理論 乳幼児期の発達理論（マラーとスターン） 4. 精神(心)の発達に関する主要な考え方③ マズローの欲求5段階 ピアジェの認知発達理論 5. 精神(心)の危機状況と精神保健① 危機とは何か？ 危機理論・危機モデル ストレスとコーピング 6. 精神(心)の危機状況と精神保健② 適応と不適応（適度なストレス状況） セルフケアマネジメント 7. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社</p>							
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席状況、授業態度、筆記試験により評価する。</p>							

科目名	精神看護方法論 I	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期										
			講義			1	2年 前期・後期										
区分	専門分野 II																
担当者	出山義洋	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	22 / 30時間										
担当者	柏原八重	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	8 / 30時間										
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>社会の変化と精神保健にかかわるさまざまな心の健康問題について学ぶ。 精神障害のある対象の特徴と疾患を理解し、臨床における精神科治療の実際を学ぶ。</p>																	
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病と疾患との側面から精神障害を理解できる 2. 精神障害者を支える法律と基本的な施策を理解できる。 3. 精神疾患／障害の診断基準と分類について理解できる。 4. 主な精神障害の病態・治療・症状について理解できる。 5. 地域における精神保健と精神看護を理解できる。 																	
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><出山義洋></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 2. } 精神科疾患のあらわれ方 3. } <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像—理解への手がかかり 3) 精神障害の診断と分類 4. } 5. } 精神科での治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科における治療 2) 精神療法 3) 薬物療法 4) 電気けいれん療法その他 5) 環境療法・社会療法 6. } 7. } 8. } 9. 精神障害と法制度 10. おもな精神保健医療福祉対策とその動向 11. 終講試験・まとめ 																	
<p>< 柏原八重 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関係のなかの人間 <ol style="list-style-type: none"> 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団 2. } 3. } 地域におけるケアと支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「器」としての地域 2) 地域における生活支援の方法 3) 地域におけるケアの方法と実際 4) 学校におけるメンタルヘルスと看護 5) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 4. 終講試験・まとめ 																	
<p>教科書</p> <table> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野 II</td> <td>精神看護学①精神看護の基礎</td> <td>医学書院</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野 II</td> <td>精神看護学②精神看護の展開</td> <td>医学書院</td> <td>2022</td> </tr> </table>								系統看護学講座	専門分野 II	精神看護学①精神看護の基礎	医学書院	2022	系統看護学講座	専門分野 II	精神看護学②精神看護の展開	医学書院	2022
系統看護学講座	専門分野 II	精神看護学①精神看護の基礎	医学書院	2022													
系統看護学講座	専門分野 II	精神看護学②精神看護の展開	医学書院	2022													
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>																	
<p>成績評価方法</p>																	

出席状況、授業態度、筆記試験、レポート課題により評価する。

科目名	精神看護方法論Ⅱ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		2	2年 後期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	村上彰	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	12 / 60時間
担当者	越智邦浩	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	17 / 60時間
担当者	井上恵介	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	山内英裕	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	16 / 60時間

授業の目的・ねらい

精神科看護における対象の理解を深め、精神に障害のある対象と家族への治療的関わりや、精神症状によって影響された生活を整えるための看護の実際を学ぶ。
紙面上事例を通して精神科看護実践の知識・技術を学び、看護過程の展開について演習を行う。

学生の到達目標

1. 精神科看護の基本技法を学び、対象の理解および治療的関わりについて理解できる。
2. 対象の関わりについて、プロセスレコードを用いて振り返ることができる。
3. 診察・検査・治療を受ける対象に必要な看護を理解できる。
4. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解できる。
5. 精神障害をもつ対象の看護過程の展開が理解できる。
6. 対象のセルフケア能力を活かした看護の関わり、援助の方法を理解できる。

授業概要（授業計画）

< 越智邦浩 >

1. ケアの人間関係
 - 1) ケア的前提
 - 2) ケアの原則
 - 3) ケアの方法
 - 4) 関係をアセスメントする（プロセスレコード）
 - 5) 患者-看護師関係における感情体験
 - 6) 関係の視点からみた困難事例
 - 7) チームのダイナミクス

< 越智邦浩 >

2. 回復を支援する
 - 1) 回復の意味
 - 2) リカバリーのビジョン
 - 3) 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点
 - 4) リカバリーを促す環境
 - 5) リカバリーを促す方法としてのグループ
 - 6) さまざまな回復のためのプログラム
 - 7) リカバリーのプロセス

< 村上彰 >

3. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護
 - 1) 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス
 - 2) リエゾン精神看護とその活動
 - 3) リエゾンナーズの活動の実際

4) 看護師のメンタルヘルスへの支援

< 村上彰 >

4. 災害時のメンタルヘルスと看護

- 1) 災害時における心のケア
- 2) 災害にみまわれた人の心理とケア
- 3) 支援者のメンタルヘルスとケア

< 村上彰 >

5. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

- 1) 看護師の不安と防衛
- 2) 感情労働としての看護
- 3) 看護師の感情ワーク
- 4) 看護における共感の光と影
- 5) 感情労働の代償と社会
- 6) 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント

6. 終講試験・まとめ

< 山内英裕 >

看護過程の展開

1. 看護理論と看護過程 オレム・アンダーウッド看護理論
2. 精神疾患患者の看護過程展開のポイント
3. 事例説明・情報収集
4. アセスメント
5. 看護問題（診断）
6. 看護計画・実施・評価
7. グループワーク
8. 発表・まとめ・課題提出

< 井上恵介 >

- | | | | |
|----|---|----------|-------------------------|
| 1. | } | 入院治療の意味 | 1) 精神科を受診するということ |
| 2. | | | 2) 治療の器としての病院・病棟 |
| 3. | | | 3) 入院中の観察とアセスメント |
| | | | 4) ケアの方向性を考える |
| | | | 5) 退院に向けての支援とその実際 |
| 4. | } | 身体をケアする | 1) 精神科における身体のケア |
| 5. | | | 2) 精神科における身体を通じた看護ケアの実際 |
| 6. | | | 3) 精神科の治療に伴う身体のケア |
| | | | 4) 身体合併症のアセスメントとケア |
| | | | 5) 精神科における終末期ケア |
| 7. | | 安全をまもる | |
| | | | 1) リスクマネジメントの考え方と方法 |
| | | | 2) 緊急事態に対処する |
| | | | 3) 緊急事態とスタッフの支援 |
| 8. | | 終講試験・まとめ | |

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎 医学書院 2022

参考書

授業の中で紹介

成績評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験、レポート課題、演習により評価する。

科目名	成人看護学実習 I (看護過程)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	2年 後期
区分	専門分野 II						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	渡部康子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	松下ゆかり	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
担当者	加賀爪美佳	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人期にある対象の健康障害が、生活に及ぼす影響を成人期の特徴を踏まえながら、基本的ニードの視点からヘンダーソンの枠組みで整理し、看護展開する方法を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解できる。 2. 対象の持つ健康障害を理解し、看護過程が展開できる。 3. 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 5. 対象の生命を尊重し、尊厳をもって接することができる。 6. 看護学生としての責任と義務を果たす行動をとることができる。 7. 自己の看護観を表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者の特徴と身体的・心理的・社会的側面について想起する。 2. 受け持ち患者の発達段階について想起する。 3. 受け持ち患者の疾患、病態生理についてレポートを提出する。 4. 受け持ち患者の健康障害により生じている問題の解決に必要な看護についてレポートし、提出する。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主として成人期にある対象を1名受け持ち、看護過程を展開する。 2. 受け持ち患者の優先度の高い複数の看護問題に対する援助を計画し、実施する。 3. 他職種との連携や継続看護の実際について、看護師とともに一部実施する。 4. 自己の目指す看護師像と自己の課題について明確にする。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>							

科目名	成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			実習		2	3年 前期	
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>急性期、回復期にある対象および家族を総合的に理解し、対象の健康レベルや機能障害など個別性に応じた生活援助及びセルフケア能力を高める基礎的能力を養う。 さらに、手術室実習を通して、手術室看護の実際について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期、回復期にある対象の特徴を理解できる。 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 対象の持つ健康障害を理解し、個別的な看護を計画し、実施できる。 対象の健康障害に応じたセルフケア能力を高める援助について理解できる。 手術室における患者の安全・安楽な看護の実際と看護師の役割について理解できる。 手術を受ける対象の苦痛・不安に対する精神的援助について理解できる。 保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割が理解できる。 急性期、回復期にある対象に、尊厳をもって接することができる。 自己の観察観を深め、専門職としての態度を習得できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 無菌操作について 手術室における看護の役割 手術を受ける患者の身体的・心理的特徴 見学する手術の術式や解剖、麻酔 麻酔や手術侵襲に伴う生体反応、および身体的・心理的・社会的影響 代表的な術後合併症とその発生機序 心臓血管系・運動器系解剖・検査 受け持ち患者の疾患の病態生理（術式）・看護 受け持ち患者の術前・術後経過と術前に必要な看護、術後に必要な観察項目と看護 <p>< 手術室 > 30時間</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 手術および手術中の看護を見学 外回り看護師の役割を中心に学ぶ 不安・苦痛に対する精神的援助 麻酔導入から覚醒までの看護 手術環境の整備を看護師とともに実施 手術室における清潔・不潔の理解 見学、無菌操作の技術のデモンストレーション実施 機械器具、機材の滅菌方法・消毒法の見学 原則として、HCUの見学 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

< 病棟 > 60時間

実習場所

愛媛県立今治病院

済生会今治病院

住友別子病院

実習内容

1. 周手術期にある患者1名受け持ち、看護過程の展開をする。
(場合により急性期・回復期のいずれかにある患者)

対象と家族の理解

健康障害・機能障害に応じた援助の実施

他職との連携・継続看護の見学、一部実施

2. 原則として、受け持ち患者入室時、HCUの見学

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
手術室(30%)、病棟(70%)に評価し、合計点を成績とする。

科目名	成人看護学実習Ⅲ (慢性期・終末期)	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	3年 前期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>慢性的な経過をたどる病気や障害をもつ対象と家族および終末期にあり緩和ケアを必要とする対象と家族を理解し、健康障害に応じた状態の回復・維持への看護と対象のQOLを尊重した看護支援ができるための看護実践能力を養う。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期・終末期にある対象を理解できる。 対象の持つ健康障害を理解し、看護展開が展開できる。 慢性期・終末期にある対象が障害を受容し、新たな生活の維持・拡大あるいは、その人らしく生を全うできるようなQOLに対する援助ができる。 対象の健康障害が家族に及ぼす影響と、家族への援助の必要性が理解できる。 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 自己の死生観について表現できる。 自己の慢性期・終末期の看護観についての深まりを表現できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の発達段階を想起する。 慢性期・終末期の看護の特徴を想起する。 受け持ち患者の疾患の病態生理・看護をレポートする。 死への受容過程について想起する。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 主として、成人期にあたり生涯コントロールを必要とする慢性疾患をもつ患者もしくは終末期にある患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 受け持ち患者の優先度の高い複数の看護問題に対する援助を計画し、実施する。 他職種との連携や継続看護の実際について、看護師とともに一部実施する。 慢性期・終末期の看護のあり方について考え、自己の看護観についての深まりを表現する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>								

科目名	老年看護学実習 I	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	1年 後期	
区分	専門分野 II							
担当者	越智文香	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間		
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>施設や病院で生活する高齢者とのコミュニケーションを通して、日常生活援助を必要とする高齢者の特徴を理解し、高齢者の介護や看護の援助方法の実際を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <p>老人保健施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人保健施設に入所している老年期にある人の生活と環境が理解できる。 2. 老年期にある人の身体的、心理的、社会的特徴が理解できる。 3. 老年期にある人とのコミュニケーション方法の実際が理解できる。 4. 老年期にある人への日常生活援助を施設の指導者とともに安全・安楽に実施できる。 5. 老人保健施設における看護師の役割が理解できる。 6. 老年期にある人々に対する思いやりを敬う気持ちを表現できる。 <p>病院</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の入院生活と療養環境が理解できる。 2. 対象の身体的、心理的社会的特徴と健康障害について理解できる。 3. 老年期の特徴に応じたコミュニケーションを持つことができる。 4. 老年期にある対象の基本的欲求（飲食・排泄・姿勢・清潔・環境）についてアセスメントできる。 5. 対象のニーズに応じた日常生活援助を計画に基づいて、指導者とともに安全・安楽に実施できる。 6. 老年期にある人々に対して尊厳を持ち接することができる。 7. 老年期にある対象への看護のあり方について自己の考えを表現できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の身体的・精神的・社会的機能の特徴と変化 2. 老年看護の特徴 3. 高齢者を取り巻く保健・福祉サービスについて 4. 介護保険について 受け持ち患者の情報に対する学習 <p>< 老人保健施設 > 45時間</p> <p>実習場所</p> <p>燧園 八恵園 シルバーハウス吹揚 ときわ園 シルビウス・ケアセンター</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入所者の身体的・社会的・精神的特徴を観察する 2. 入所者の一日の生活状況を理解する (集団リハビリやレクリエーションへの積極参加) 3. 加齢による変化に応じたコミュニケーション実施 4. 入所者を1名受け持ち、日常生活の援助を行う (施設内における指導者と行動を共にし学ぶ) 5. 入所者が受けている保健・福祉サービスを知る <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>								

< 病院 > 45時間

実習場所

吉野病院

放射線第一病院

美須賀病院

瀬戸内海病院

今治市医師会市民病院

実習内容

1. 老年期にある患者を1名受け持つ
2. 6つの基本的欲求について情報収集し、アセスメントする
3. 気がかりな基本的欲求について援助の計画を立案する
4. 援助は看護師とともに実施する。
5. 加齢による変化に応じたコミュニケーション実施

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
老人保健施設（50%）、病院（50%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	老年看護学実習Ⅱ	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	3年 前期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	渡部康子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間		
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>健康障害のある高齢者と家族の特徴を理解し、対象の個別性とQOLを踏まえた看護を展開し、社会の中で高齢者と家族を支援していくための対象実践能力を養う。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象と家族の特徴を理解できる。 2. 老年期にある対象の健康障害・加齢による変化を踏まえたコミュニケーションができる。 3. 老年期の対象のQOLおよび個別性を踏まえた看護が展開できる。 4. 家族または介護者の精神的援助について理解できる。 5. 老年期にある対象と家族の特徴に応じた保健・医療・福祉チームの連携のあり方、継続看護について理解できる。 6. 老年期にある対象に倫理的配慮ができる。 7. 老年看護に対する自己の看護観についての深まりを表現できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化(身体的・精神的・社会的特徴)を想起する。 2. ライフサイクルからみた老年期の特徴を想起する。 3. 老年看護の基本的技術（観察・コミュニケーション・日常生活援助）を想起する。 4. 受け持ち患者の疾患、障害の看護（ADLの障害など）をレポート提出。 <p>実習場所</p> <p>愛媛県立今治病院 済生会今治病院 住友別子病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある患者を1名受け持ち、老年期の特徴を踏まえた看護過程を展開する。 2. 受け持ち患者の優先度の高い複数の看護問題に対する援助を計画し、実施する。 3. 老年期のQOL, 個別性を踏まえた援助の必要性を学ぶ。 4. 他職種との連携や地域包括支援・継続看護の実際について、看護師とともに参加し学ぶ。 5. 高齢者の看護の課題について考察する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>								

科目名	小児看護学実習	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	3年 前期	
区分	専門分野Ⅱ							
担当者	松下ゆかり	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間	
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>子どもと家族を社会の中で捉え、総合的に理解し、さまざまな状況にある子どもと家族の権利と尊厳を重視した個別的看護が実践できる基本的能力を養う。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達と発達課題について理解できる。 2. 子どもと家族の健康の保持増進に向けて、必要な支援について理解できる。 3. 健康障害や入院が、小児と家族に及ぼす影響について理解できる。 4. 健康障害をもつ小児と家族を総合的に理解し、看護上の問題に対して個別的・計画的な看護を実施できる。 5. 子どもと家族のセルフケア能力を高めるための指導について理解できる。 6. 子どもを一人の人格をもつ存在として尊重し、子どもの権利を守る行動をとることができる。 7. 小児看護に対する自己の看護観及び自己の課題を表現できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <p>レポートとして提出する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉法 2. 保育所（園）と幼稚園の違い 3. 乳幼児期の年齢別の成長発達の特徴と基本的生活習慣の獲得状況 4. 健康な小児の日常生活の援助 5. 小児の主な疾患の病態生理・合併症・一般的看護 6. 小児科外来の看護、健康診断について 7. 集中治療を要する低出生体重児の看護 8. 小児の事故防止・感染防止・予防接種について <p>< 保育所 > 37.5時間</p> <p>実習場所 今治市立保育所（13施設） エンゼル保育園</p> <p>実習内容</p> <p>健康な小児の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の成長発達と発達課題を理解する。 2. 乳幼児のコミュニケーションの特徴を保育士と乳幼児との相互作用を通して理解する。 3. 保育士とともに保育活動の実施または見学する。 発達段階別に応じた遊びの援助、健康、安全対策の実施 基本的習慣の自立過程における日常生活の援助 4. 自己の子ども観の深まりを述べる。 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p> <p>< 病院 > 52.5時間</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院（小児病棟・小児科外来）</p> <p>実習内容</p> <p>健康障害をもつ小児と家族の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患児の成長・発達段階の理解 2. 発達段階に応じたコミュニケーションがとれる。 3. 患児と家族の反応を観察しながら、病棟の計画に基づいた援助を実施する。 病状に応じた観察・遊びの援助・事故の予防・日常生活援助 								

4. NICUの見学
5. 小児科外来を訪れる子どもと家族の健康問題を理解し、対象に応じた援助及び保健指導の実際を学ぶ。
- カンファレンス
学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
保育所（40%）、病院（60%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	母性看護学実習	必修	授業形態			単位数	開講時期
			実習			2	3年 前期
区分	専門分野Ⅱ						
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	眞木智美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>周産期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護過程の展開を通して、周産期に必要なウェルネスの視点を学ぶ。また、生命の誕生という貴重な場面を通し、生命の尊厳について改めて考える機会とする。さらに、現代社会の中で子育てを支援するための母子保健医療チームの一員としての看護者の役割について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠前・中・後期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際について理解できる。 2. 分娩第1・2・3期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際について理解できる。 3. 産褥期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際を理解できる。 4. 新生児期の身体的、心理的、社会的特徴と援助の実際を理解できる。 5. 産褥期及び新生児期における母子及び家族の健康増進上での問題と課題を把握し、看護過程を展開できる。 6. 母子保健医療チームの一員としての役割と責任を自覚し、生命の尊厳に配慮した行動をとることができる。 7. 母性看護学実習を通し、自己の母性観・父性観を深め表現できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習 レポートとして提出する内容①～④</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期における特徴と看護 2. 分娩期における特徴を看護 3. 産褥期における特徴を看護 4. 新生児期における特徴を看護 5. 母性看護に特有な技術（校内実習を行ったもの）について想起する。 <p>< 地域産科 > 45時間 実習場所 きら病院 実習内容 妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥婦及び新生児を1名ずつ受け持ちアセスメントし、健康課題を明確にし援助する。 2. 産婦人科外来 見学により、妊娠前・中・後期の妊婦の健診、診察の介助、保健指導、助産師外来の実際を学ぶ。 3. 妊娠期や出産後に行われる集団指導への参加や個人指導の見学をする。 4. 実習病院独自の母子への支援活動に参加し、母子支援の在り方を学ぶことができる。 5. 産婦の援助、分娩の計画をする。 6. 母性特有の看護技術について積極的に経験（実施・見学）する。 <p>カンファレンス 学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>							

< 総合病院 > 45時間

実習場所

愛媛県立今治病院

実習内容

妊娠・分娩・産褥期および新生児の看護

1. 産褥婦及び新生児を1名ずつ受け持ち、重点的にアセスメントし看護過程を展開する。
2. 妊娠期や出産後に行われる集団指導への参加や個人指導の見学をする。
3. 産婦の援助、分娩の見学をすることができる。
4. 母性特有の看護技術について積極的に経験（実施・見学）する。

カンファレンス

学生主体で毎日実施する。 30分程度

教科書

参考書

成績評価方法

実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。
地域産科（50%）、総合病院（50%）に評価し、合計点を成績とする。

科目名	精神看護学実習	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
			実習			2	3年 前期	
担当者	渡部康子	資格	看護教員 保健師	実務 経験	有・無	時間	90時間	
担当者	長谷部亜希子	資格	看護師	実務 経験	有・無	時間		
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務 経験	有・無	時間		
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神障害をもつ患者を理解し、精神の健康の保持増進・回復に対する看護の役割を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体像を把握し、精神障害を持つ人を理解できる。 2. 精神の健康の保持増進・回復に対する看護の特徴を理解できる。 3. 病棟で行われている看護を把握し、対象に適した看護計画を立案・実施・評価できる。 4. 対象のプライバシーを保護し、対象を尊重して関わることができる。 5. 精神保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。 6. 実習病院を通して、精神科医療の現状について理解できる。 7. 実習を通して精神看護に対する自己の看護観を述べるができる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の種類と特徴について既習の知識を想起し、整理しておく。 2. 精神保健医療福祉システムについて既習の知識を想起し、整理しておく。 3. 精神看護学の基本技術（対人関係的技術、精神状態のアセスメント技術）について確認、整理しておく。 4. 看護過程に沿った具体的な生活援助（セルフケア不足に対する援助）方法について既習の知識・技術 5. 受け持ち患者の疾患に関係する病態生理、症状、検査、治療、処置、一般的看護の方法についてまとめる。 <p>実習場所</p> <p>正光会今治病院 十全ユリノキ病院</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を1名受け持ち、生活者としての精神障害者に対する理解を深め、日常生活の援助を実践する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係技術(患者・看護者関係)を用いて、対象との治療的対人関係を形成する。 2) 対象との関わりについてプロセスコードを使って、自己対峙・自己洞察する。 3) 看護過程を用いて、対象に応じたセルフケア不足に対する援助を実践する。 4) 社会資源の活用、対象の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を構想する。 2. 精神科病院、地域で行われている保健・医療・福祉アプローチ(SST・作業療法、デイケア、訪問看護など)について知る。 3. 病院・地域における各種専門職との連携について知り、看護師のコーディネーション機能を理解する。 <p>カンファレンス</p> <p>学生主体で毎日実施する。 30分程度</p>								
教科書								
参考書								
<p>成績評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、看護実践・実習態度・実習記録・出席状況などにより、総合的に評価する。</p>								